

## 宗教者の立場から見る科学の役割

### 人類は如何にして人間を幸せにする技術を生み出してきたか

ダライ・ラマ法王との対話は平成 25 年 11 月 16 日、千葉工業大学で行なわれた。

聞き手は、櫻井よしこ国基研理事長。

#### ダライ・ラマ十四世

1935 年、チベット・アムド地方のタクツェル生まれ。誕生した翌年に、ダライ・ラマ十三世の転生者として迎えられ、1940 年、ポタラ宮殿で即位。1950 年、チベットの政治・宗教上の最高指導者となったが、中国のチベット侵攻により、1959 年、インドに亡命し、ダラムサラに亡命政権を樹立した。1989 年、ノーベル平和賞を受賞。現在、世界各国をまわり、チベット問題の平和的解決を訴えると同時に世界平和のために積極的な講演、法話活動を行っている。

『チベットわが祖国ーダライ・ラマ自叙伝』、『愛と非暴力』、『ダライ・ラマ 日々の瞑想』など著書多数。

**ダライ・ラマ** 私は今、若い人たちとここにいることを大変幸せに思っています。なぜなら、私は自分自身を二十世紀に所属する人間だと思っていて、二十一世紀になった今日も、なおここにいることができたからです。

過ぎ去った二十世紀は基本的に「暴力の世紀」でした。日本の人々に対して、核兵器も使われました。しかし、私たちはそうしたことが起こった過去を変えることはできません。

仏陀でさえ、過去を変えることはできません。しかし、未来が現在によって創られるのは明らかですから、世界を暴力のない平和な未来に変えていくことは可能なのです。人類は、より幸福な、より平和な、そしてより思いやりのある二十一世紀を築く機会と能力を持っています。

その責任は若い人々の肩にかかっています。私たち二十世紀の人間は、二十一世紀の若者世代がより良い世界を創造するために十分な努力を払っているかどうか見守っています。

**櫻井** 現代の科学技術の発展についてどう思われますか。

**ダライ・ラマ** 今日の技術の発展は素晴らしいと思います。技術は人類を変え、生活をより便利にしています。同時に、生活をより忙しくもしています。私は常に携帯電話を持っていて、誰とでもすぐに話をすることができます。しかし、リラックスする時間ありません。

また、若者の視力低下は、テレビの見過ぎだと考えていますが、それは時間の浪費でもあります。仏教の実践者として、視覚や聴覚、嗅覚、触覚ばかりを使いすぎるのは、あらゆる分野のことを分析する能力を持っている人間の頭脳の半分を浪費することだと考えていま

す。もし、あなたがそういう生活をすれば、頭脳の半分は失われます。技術は物理的な快適さを提供してくれますが、精神的な快適さは与えてくれないと言えるでしょう。

動物は鳥や蝶でさえも、感覚的な意識を最大限に使います。象の鼻は数キロ離れた先の臭いを嗅ぐことができます。動物の一部の感覚能力は人間以上に強力です。しかし、どんな動物も、人間の脳に匹敵する能力を持っていません。

**櫻井 仏教と技術の相互関係についてはどうお考えですか。**

**ダライ・ラマ** その話の前にひとこと。私は自分が特別な存在だとは思っていません。精神的、感情的、そして物理的、生物的にも、皆さんと同じ人間です。皆さんが幸福な人生を求めると同じように私も幸せを望んでいます。皆さんは素晴らしい頭脳を持っていますし、私もそうです。分野によっては、皆さんのほうが、私より優れた知識を持っているでしょう。そのため、私はあなた方から学ぶことができます。私の頭脳は、すべての人間の心や感情と同じように反応します。この人間の感情にどう対処するかが重要なのです。

技術だけでは、より幸せな世界を創造できるという保証はありません。核兵器が技術の力によって作られたように、技術や科学は建設的にも、破壊的にもなります。

技術自体は責任感や物事への関心を生む能力はありません。人間の精神だけが他人の安寧に関心を払うことができるのです。世界の七十億の人々は、みんな同じ人間であると強く意識し、そのことを理解できれば、他者を傷つけることはできなくなります。

技術は他人の感情に共感することはできません。それができるのは人間だけです。ですから、未来に関しては、一定のビジョンが必要です。人間だけが人類全体へ無限の関心を育成する能力を持っています。人間だけがこの世紀を幸せにも破壊的にもできるのです。

技術そのものは中立的なものです。しかし、人間の使い方によって、好ましいものにも否定的なものにもなります。怒りや憎悪を持ち、自己中心的な態度で、技術を使えば、破壊的なものになり、逆に、節度や人間性を持ち、世界の安寧のために使えば、肯定的なものになります。

あらゆる種類の動物も、世界を破壊するほどの危害を加えることはありません。それをするのは人間だけです。だから、私たちは真の責任感を持たなければならないのです。社会的動物としての人間は、他人の安寧に関心を払うことに適していません。しかし、すべての人は、母親から誕生し、両親、とくに母親の愛情を受けて成長してきたのですから、少なくとも家族、近親者への愛はすでに持っています。この経験はとても重要で、そのことを通して、他人に対する安寧の思いを育む「種子」を持つことになるからです。

そこで、知性を発揮してください。肉親に対するのと同じように、人間性について深く考えながら、自己中心的な態度を最小限にするよう試みてください。そうすることで、私たちは人類全体の安寧に真の関心を持つことができるのです。すでに内包している「種子」に対して、人間の知性を使えば、家族や周りのコミュニティだけでなく、敵を含めた人類全体の安寧への思いに至るはずで、敵も人類の一部であることを理解しなければなりません。そして、敵に対しても愛と関心を差し伸べることです。

さて、先ほどの質問について答えましょう。アラブ出身のイスラム教徒の先生が、私に「宗教と科学は別のものでしょうか」と尋ねたことがあります。彼は「科学は精神を発達させるのかどうか、信仰心と関係があるのかどうか」という点で、少し迷っていたのです。

宗教と科学はまったく関係はありません。人間は身体と心を持っています。科学は肉体的な快適さは与えてくれますが、心の快適さは宗教的信仰によってしか生まれません。

だからこそ、世界のすべての主要宗教は伝統的に愛や慈愛について語っているのです。愛を敵にも差し伸べ、寛容や容赦の実践を説いています。真の満足感を味わうためには、極端な自己中心的態度や過大な欲求、貪欲さを減らすことが大切だという観点から、すべての宗教は伝統的に「我」について、哲学的に教えているのです。

宗教は基本的に創造者を受け入れることを意味します。キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、ヒンズー教のどれもが創造者を信じます。一方で、いくつかの古代宗教や仏教には創造者という概念がありません。仏教と他の宗教には哲学的に大きな違いがあるのです。しかし、その哲学的な違いは、人間のさまざまな価値を理解するためのアプローチの違いにすぎません。

世界の人口が今のインドよりずっと少なかった三〇〇〇年前でさえ、一つの地域に多くの違いがありました。ヒンズー教も多くの哲学的な違いがありました。五から十の流派があったと思います。

その後、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教が生まれました。人間の基本的価値観に至るには違うアプローチが必要なのです。

仏陀は、「僧侶、学者たち、すべての私の弟子たちよ、信仰心から私の教えを受け入れるべきではない。むしろ、それを調査し、実験しなさい」と言いました。私たちは仏陀のこの言葉をすぐに受け入れることはできません。多くの師たちは、この仏陀の言葉を携えて、調査をしました。そこで論理に依拠した統一の見解が生まれたのです。仏教徒の信仰は論理に基づかなければならないというのが仏陀の考え方です。

私は子どものときから、科学に強い興味を持っていました。十五歳の頃、明るい夜空を見て、どうしてこんなに澄み切っているのかと不思議に思いました。田舎に住んでいた頃、美しい夜空を精度の高い天体望遠鏡で見て、月に山があることを発見しました。夕日が沈み、薄暮のときにその山が見えました。光は太陽から来ていました。ある教典には、月は女神や神のいる場所と書かれています。むろん、仏陀とは違うタイプの神々です。その神は自らの光も持っています。しかし、実際の月の神は光を持っていません。太陽からの光を受けています。そこで、私は疑問を抱き、これに関する科学書を読み、天文学を勉強しました。

私は、太陽と月のサイズがあまり変わらないように見えることに気づきました。これは現実ではないと考え、ある日、先生を招き、一緒に望遠鏡をのぞき、月の山を見ました。すると、先生は「これは本当の月の姿ではない。光は西方から来ている」と言っていました。私の探求心はこのようなものでした。

私は電気にも興味を持ちました。AC（交流）とDC（直流）の知識ぐらいは持っていま

した。

一九五四年とその翌年、中国を訪問し、巨大な水力発電所を視察した際、中国の技術者たちに、電力はどうして作られるのか、ACとDCの違いなどについて質問しました。大変興味深い体験でした。

一九六〇年代のことですが、チベット仏教の信者だったアメリカ人女性と現代科学について議論したことがあります。宇宙論、神経生物学、物理学、心理学の四分野について議論しました。彼女は「科学は宗教を殺してしまうので、注意してほしい」と言っていました。私は、仏陀の「私の教えを信仰心から受け入れるべきでない。調査しなさい」という言葉を思い出し、科学的な発見方法や調査をすることには何も問題ないと感じました。

もし、仏教の教えに科学的な証明との矛盾があれば、科学的な証明を受け入れる自由があると思ひ、また、仏教の教えを別の角度からも説明できると考えました。そこで、私は科学者たちと会い、議論をしました。その結果、仏教にも宇宙学や量子物理学に関する言及があることが、はっきりとわかりました。

ニューヨーク滞在中、私は仏教の概念、仏教哲学について講演しました。講演のあと、聴衆の一人が「仏教を知るためには、何を最初に学ぶべきですか」と質問しました。

私は、「たとえば、花には色や香りといった一般的に知られた機能があります。それをさらに深く深く観察していくと、その花に対して、もはや客観的に、花はこういうものだとの的を絞れなくなります」と答えました。

このように何事も深く、深く分析することです。あるとき、その質問者とインドで会いました。彼は量子物理学について書かれた二〇〇〇年前の文献を見て、大変誇らし気でした。「インドでは二〇〇〇年前に、その概念が存在していた」と私に語ったのです。量子物理学も近代科学、物理も難しいものです。しかし、客観的によいものは共存しなければなりません。かつて、私たちは客観性を見つけることに失敗し、ニヒリズムに陥りました。仏教の哲学者は基本的に自分の言葉で語りますが、さらに議論を通せば、科学的な発見から多くの情報を得ることができます。心、意識、感情などに関して、科学はあまり発展していません。私は、心理学はまだ幼稚園レベルだと言っています。仏教哲学を含めた古代インドの一種の心理学は大変発達していました。

多くの科学者たちはそのことを実感し、私たちとの対話に熱心になっています。その成果として、「心と生命の研究所」を設立しました。研究所はすでに二十七年を経過し、毎年、米国やヨーロッパなど各国でミーティングを開いています。出席者はますます多くなっています。日本からも女性の参加者がいましたが、日本の科学者の参加がさらに増えることを期待しています。

インドの古い伝統文化の中に、医療という用語があり、仏陀も自分の言葉で、医療について述べています。私も肉体的な快適さ（健康）には注意をしています。心地よさについてもそうです。先に述べたように技術も幸せな生活の一部です。同時に私たちは内面的な価値に限界を設けるべきではありません。さて、質問をどうぞ。批判や議論も大歓迎です。

**櫻井** 今日、技術は極めて高い水準に達し、人間に多くの利便性をもたらしています。しかし、人間の心や精神面を見つめれば、幸福感を本当に感じる水準にまで到達していないと思います。そして、さらに重要なことは、世界の学者や哲学者、政治家、その他の分野の指導者たちが、宗教の概念を理解することだと思えます。世界の指導者たちが精神的な領域に踏み込むよう促すためにはどうすればいいのでしょうか。彼らを、さらに深く、より高くその世界に押し上げるにはどうすればいいのでしょうか。

**ダライ・ラマ** 現存の教育制度には道徳的倫理教育が欠けています。友人である科学者、教育者、哲学者たちとその問題を議論したとき、彼らは道徳倫理教育は宗教的信仰を基盤にすべきだと言いました。その考え方は問題を複雑にします。たとえば、インドには三つの宗教的共同体があります。もし、その考え方を採用すれば、インドではどの宗教を基盤にするのでしょうか。日本は基本的に仏教国ですが、キリスト教徒もいますし、歴史的な宗教である神道もあります。インドの憲法は世俗主義です。それをよく理解しているインドの人々はすべての宗教に敬意を払い、無神論者にも敬意を持っています。これは大変重要で、興味深いことでもあります。

三〇〇〇年前のインドには、精神性やカルマ（業）、死生観のないニヒリズム的な哲学がありました。古代ニヒリズムの思想です。多くの思想家はこれを厳しく非難、批判し、一〇〇〇年ほど前に、相手を尊敬する思想を持った哲学が生まれました。

私たちは世俗主義に基づいて、道徳や倫理をもっと広めようと努力しています。特定の宗教ではなく、すべての宗教、そして無神論者にも敬意を払わねばなりません。こうした考え方は普遍的なものですから、道徳問題にアプローチするとき、世俗主義国の教育分野にもうまく適合するのです。

アメリカのいくつかの大学では、実験的にこの考え方を採用し、道徳のクラスも設置しています。学生たちは平和な精神を育み、人間関係でも、より慈しむ心を持つようになり、前向きになっているという具体的な成果を上げています。

訓練の開始前に、血圧やストレスなどのテストを行い、毎日三十分間、慈愛の心を育む訓練を実験的に実施しています。この訓練を二、三週間つづけると、血圧やストレスが減少し、リラックスした気分になることが実証されています。この訓練では、神や転生の話はしません。平和な心は私たちの健康に大変重要です。平和な家族にとっても同じです。

昨日、テレビ局のインタビューを受け、いじめについて質問されました。年長者や強い者が年少者や弱い者をいじめる。これらの問題は極端な自己中心的態度から生まれます。いじめ、だますこと、人の搾取、最悪の場合は暴力。これらの問題の解決に法律はあまり有効ではありません。社会の安寧のためには教育が重要です。あなた方自身の健康と幸福を得るためには、他人を尊敬することです。腐敗という社会の暗い面も見られます。こうしたことをする人々には、人間の価値に対する堅固な信念が欠けています。彼らは自分自身を別の方法で確立するために宗教を持たなければなりません。

しかし、宗教、宗教的な人々も、時に信者を搾取します。宗教も汚いものになることがあ

ります。政治も汚いものになります。それは社会の一要素です。政治家は潔白ではありませんし、宗教分野の人々の心も正直ではありません。専門的なものも含めてあらゆる人間の活動は否定的な側面があり、汚い職業にもなります。だから、教育に道徳的倫理を盛り込むことが重要なのです。この教育は宗教を基盤にしたものではなく、科学的知見に基づくものであるべきです。そうすれば、学生たちの心に確信をもたらすでしょう。時に効果がないこともあるでしょう。しかし、道徳的倫理教育が社会の安寧に最善の方法であることを明確にすれば、学生たちはもっと関心を払うでしょう。

人間の感情についても同じことです。基本的な人間の価値を確信する教育を世界的に広げる努力をしなければなりません。教育はいま物質的な価値に向けられていて、社会にも物質的な文化があふれています。そんな社会に対し、政治指導者だけを責めることはできません。私たちはこの問題をより深く、根本的なレベルで考えなければなりません。

政治指導者は道徳的倫理についてあまり語りませんが、私はここ数年、アメリカやメキシコなどで、この問題を常に語っています。

**櫻井** 猥下がおっしゃったことの重要性を認識しない国もいくつかあります。教育が一方的で、偏向している国があることがその理由だと思います。そういう国では今おっしゃったことを実現するのは難しいでしょう。

会場から学生の質問 人間の生死と中絶問題についてどうお考えですか。

**ドライ・ラマ** 生命の誕生は始まりで、死は終わりです。万物がそうです。地球もビッグバンが始まりで、やがて消えるでしょう。人間の生命の誕生については個別に考える必要があります。胎児は母親の子宮にいますが、検査によって深刻な問題を抱えているとすると、家族にとっては重大なことになります。

中絶は基本的に殺人です。悪いことです。しかしながら、ある特別な状況下では例外と考えるべきです。これが私の見解です。この問題は一般化できません。同じように、とても貧しい家族が、意識もなく、肉体だけが生きているような老人を抱えている場合はどうでしょうか。それでも、家族はその老人を殺すことは難しいでしょう。そうした場合はより大きな配慮を持ってケース別に判断するしかないのです。

私が百歳以上生き永らえたとしても、ただ肉体的に生きている状態なら、私は死を選びます。人間の有用性は脳にあります。脳が適切に機能しなければ、有用性はあまりありません。仏教徒としては、転生によって、新しい命、体を持つほうがよいと思います。キリスト教の観点からみても、地獄に行くより天国に行くほうがいい。

つまり、この問題は、個別のケースで考えるしかなく、どういう選択をするかは家族の手にあります。

学生の質問 私たちの大学は最も進んだロボット開発で有名です。そのロボットは現在、被災した原子力発電所の現場で、問題解決のために働いています。これはどう思われますか。

**ドライ・ラマ** ロボットは仕事ができる機械です。水を運ぶことも、注ぐこともできるでしょう、暖かい水、冷たい水と注文すれば、持ってきてくれるでしょう。しかし、ロボットが

ある日、人間になるとは思いません。ロボットはロボットです。

店で花が売り切れても、また新しい花が置かれ、成長します。物事を考える際、生命という観点からだけでなく、意識からも考える必要があります。古代にはすべての生命には何らかの意識があると考えられていました。しかし、仏教を含め他の考え方はそうではありません。なぜなら、感覚がないからです。私はロボットの有用性を信じますが、それも限界があると思っています。

教授の質問 ロボットの機能はまだ一定の限界がありますが、人間に近いロボットを開発することも試みています。そうなれば、人間をもっと容易に、スムーズに助け、サポートすることも可能になります。私の仲間はそうしたロボットを完成させようとしています。私たちは常にロボットに心や感覚を持たせることは可能だと考えています。それが実現できれば、機械と人間が良好な関係を築くことができると思っています、学生にも、ロボットに愛情をもって開発することが最も重要だと教えています。心を持つようなロボットを開発することは、未来に向けて、いいことでしょうか。

また、月への飛行、インターネットプログラムの開発などの挑戦は宗教的観点からどうお考えですか。

**ダライ・ラマ** コンピューターは人間の頭脳となるまでに発達するかどうかについては、ある人は可能と言い、ある人は否定的です。私は、ロボットが人間に代わって新しいものを創造できると思いません。しかし、研究と技術開発を継続することは大変重要だと思います。私はある仕事に共同で携わっています。その中で、いろいろ試していくと、答えが見つかります。

あなたも五年、十年と継続的に挑戦していけば、答えがわかると思います。

仏教は、いわば過ぎ去った歴史です。インドには仏教以外に多くの思想の流派がありました。仏教から非仏教、非仏教から仏教への流れがありました。この両方の思想を発達させることが役立ちます。相互関係を考えることによって、物事は発展するのです。進歩のためにはあなた方のような挑戦は大切です。

学生の質問 チベットの未来をどう考えていますか。

**ダライ・ラマ** 私はいま七十八歳です。論理的に言えば、私に関係なくチベットと仏教は残ります。

政治的には、ダライ・ラマは、二重の責任を負っています。チベット（亡命）政府の長としての責任と精神性の最高指導者としての責任です。

私はすでに前者の責任を果たしたと考え、二年前にその地位から退きました。宗教的な権威は四世紀に及ぶチベット仏教の伝統の中にあるもので、私はそれから身を引き、今はただの一僧侶だと思っています。精神的指導者は宗教コミュニティの会議で決められますが、大変優秀で、健康的な若い新指導者が間もなく決まるでしょう。

ある統計によると、二十世紀には、第一次世界大戦、第二次世界大戦、朝鮮、ベトナムなどの戦争で使われた破壊的な力によって多くの人が犠牲になっています。その破壊力は核

兵器を含めてますます増大しています。私は日本へ最初と二回目の訪問をしたとき、広島、長崎を訪れる機会がありました。広島原爆資料館に、午前八時十五分で止まったままの古い腕時計が陳列されていたのを鮮明に覚えています。何人かの被爆者と会って、深い悲しみと強い怒りを覚えました。長い間、その感情は消えませんでした。戦争の破壊や勝利は、敵の事を決して考慮しません。肉親の事も考えません。私たちはそれに取り組み、問題を止めなければなりません。それは技術によってではなく、教育によって取り組むべきです。

東日本大震災のとき、被災地の人たちはすばらしい対応をしました。フィリピンの災害でも、人々はなかなかよく対応しました。西洋の人々は「東洋の人々はどうしてあまり心配しないのか」と驚きました。

イラク戦争のときには、世界中で武力に反対する運動が盛り上がりました。

EUの中でも、数世紀にわたり敵対していたフランスとドイツは基本的に和解をし、欧州の平和に貢献しています。私の友人であるドイツ人教授はこう言いました。「私が若かった頃、ドイツ人とフランス人はお互いに敵として見ていましたが、その態度はいまや完全に変わりました」。

このように、現実によく目覚めると、「自分たちは彼らと違う」と考えることはもはや時代遅れなのです。

日本の未来は中国の動向によると思います。他のアジアの国々もそうです。中国は日本の技術に大いに依存しています。インドも必要としています。アジア全体では西洋を必要としています。現実が大きく変わっているのに、私たちの認識はそれに追いついていません。この問題は、技術力では解決できません。ロボットがすべての責任を取るようになれば、人間の否定的な感情がなくなり、世界はもっと安全なものになるでしょう。しかし、そんなことは不可能です。

人間が生き延び、より啓発され、さまざまな問題に対処できるようになるためには、問題を起こす人がいたほうがいいときえ思っています。たとえば、環境問題があるから、それに対し真剣に取り組むのです。これが人間の本質的な性向です。世界の七十億の人間はすべて母親から生まれ、両親の愛情を受けてきたので、深い内面には幸福感があり、恐怖心も少ないのです。しかし、指導者あるいは億万長者になったことによって、母親の愛情が少なくなり、深い内面には不安感が存在してきます。このことが不信感や恐怖心、孤独感を作り出しているのです。

人間の本質的な性向には、慈しむ感情があると信じています。科学者たちにも、慈愛心と協調性を持ち、より健全になれと訴えています。そして、ある科学者は恐怖心や憎しみ、怒りは人間の免疫システムを実際に破壊すると主張しています。物事を解決するにはすべての関係者の利害を考え、すべての人を尊敬する必要があります。もし、私が神に「私は特別な存在です」と告げたら、想像以上の距離感が生まれ、私の内面が不安感に襲われます。自己中心的な態度は実際に不安感の原因になります。人間共通の利害を考えるようにすれば、ずっと楽な気持ちになるでしょう。「私は人間で、間違いも犯す。あなたも同じです」と考



えてください。

**櫻井** 梶下が話されたことは、七世紀以来の日本の国民的性格にぴったりと合います。私たちの伝統は、人間の安寧に多くの配慮が払われてきました。ですから、今、お話しいただいたことが、私たちの心に自然に入ってきたのだと思います。ありがとうございました。